【表紙写真】

「神田川クルーズ」では、普段見ることのない角度から、東京の街を眺めることができます（詳細は8頁「のんちゃんのお出かけ記」参照）。

❶御茶ノ水駅を通過する、東京メトロ丸の内線。船長さんが電車の通過時刻を教えてくれるので、神田川の上を真っ赤な車体が通り過ぎていく様子をばっちり写真に収めることができました。

❷1932年（昭和7年）竣工のJR総武線・御茶ノ水駅―秋葉原駅間に架かる「神田川橋梁」。下からのアングルは、八の字型の独特なデザインが美しく圧倒されました。

浮世絵にも登場する重要文化財「日本橋」も、クルーズ船ならではのアングルで撮影。首都高の地下化に伴い、この景観もいずれは見ることができなくなってしまいます。

「小さな親切」誌は、季刊発行
春号・5月、夏号・8月、秋号・11月、新春号・1月の予定です

2026年8月1日発行　通巻543号
編集・発行人　安藤隆春
発　行　所　公益社団法人「小さな親切」運動本部
〒101-0061東京都千代田区神田三崎町2-20-4
TEL.03-3263-2866　FAX.03-3263-3838
https://www.kindness.jp/
印　刷　所　広研印刷株式会社
©無断転載禁止　落丁、乱丁はおとりかえいたします。

「小さな親切」運動函館支部の会報より、役員のエッセイを紹介します。

「小さな親切」リレーエッセイ

「徒然なるままに」

あっぱれ、パパ！

函館保護司会連合会　会長●勝又 真澄

お盆のお墓参りで、実家のある宇都宮に帰省しました。関東の猛暑は凄まじく、冷房が効いていても満員電車の中は、車窓から差し込む日差しと蒸し暑さで不快極まりない状況です。

そこで小さな女の子を抱いたお母さんと、3歳くらいの男の子の手を引いたお父さんが乗ってきました。車内は人であふれており、手すりにつかまることもできません。男の子はそびえ立つ大人たちの間に挟まれて、さぞ恐ろしかったでしょう。

案の定、「パパ、抱っこして。」と言い出しました。そのときお父さんは、

「今、○○駅だから、次の次の△△駅に着いたら降りる人がいて、抱っこできるかもしれないから、アナウンスをよく聞いていて。」と優しく言いました。男の子は「うん。」と小さくうなずき、必死でアナウンスを聞こうとしています。

そして今度は、「お菓子が食べたい。」と訴えます。するとお父さん、

「今できることは、△△駅で電車が空いたら食べるか、電車を降りてから食べるか、どちらかだね～。」と、選択肢を提案します。男の子はちょっと考えて、「じゃあ、もう少しだね。」と言いました。

そんな会話を聞いているうちに、その親子は降車していきました。相手が小さな子どもであっても、「できない。ダメだ。」と否定するのではなく、できる方法を伝えたり、可能にするための選択肢を提案したり、私たち大人同士でも大事なことだと感じました。

お父さんの子育てに「あっぱれ！」

2025.10.1発行（№90）号より

今年も「街頭キャンペーン」で「小さな親切」運動をPRしました